

	第1期広域計画 (H22～H25)	第2期広域計画 (H26～H28)	第3期広域計画 (H29～H31)	第4期広域計画 (R2～R4)
基本的な考え方 (柱立て)	—	アジアのハブ機能を担う新首都・関西	国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西	国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西
	—	個性や強みを活かし地域全体が発展する関西	個性や強みを活かして、人の環流を生み出し、地域全体が発展する関西	個性や強み、歴史や文化を活かして、地域全体が発展する関西
	—	—	アジアのハブ機能を担う新首都・関西	アジア・世界とつながる、新たな価値創造拠点・関西
将来像	4 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西	4 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西	1 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西	1 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西
	5 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西	5 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西	2 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西	2 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西
	3 国内外にわたる観光・交流の関西	3 国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西	3 国内外にわたる観光・文化・スポーツの交流拠点関西	3 国内外にわたる観光・文化・スポーツの交流拠点関西
	1 世界に開かれた経済拠点を有する関西	1 世界に開かれた経済拠点を有する関西	4 世界に開かれた経済拠点関西	4 世界に開かれた経済拠点関西
	2 地球環境への対応、持続可能な社会を実現する関西	2 地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西	5 地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西	5 地域環境・地球環境問題に対応し、環境・経済・社会の統合的向上による持続可能な関西
	6 人やモノの交流、アジアのハブ機能を有する関西	6 人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点関西	6 人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点関西	6 人・モノ・情報が集積する基盤を有する世界のネットワーク拠点関西

※下線は、前期計画からの変更部分

	第3期広域計画 (H29～H31)	第4期広域計画 (R2～R4)
将来像実現に向けた広域連合の役割	<p>広域連合は、①分権型社会の実現、②関西全体の広域行政を担う責任主体づくり、③国の事務・権限の受け皿づくりを目的に設立された団体である。</p> <p>このような設立目的を踏まえ、現在の中央集権体制を打破し、政策の優先順位を自ら決定・実行できる個性豊かで活力に満ちた自主・自立の関西を創り上げていくことを目指し、将来像の実現のため、関西で一元的に対応することが望ましい事務・権限を精査の上、国からの事務・権限の移譲等、地方分権改革の推進に取り組むとともに、広域課題への対応の更なる深化を図る。</p> <p>また、将来像の実現には、地方創生の更なる深化が重要であることから、広域連合は構成団体の取組との整合性を図りながら、積極的に連携し、「関西創生戦略」の実現に向けて取り組む。</p> <p>さらに、そのような取組のみならず、広域連合、国や構成団体、圏域内の市町村、経済界やNPO、住民といったあらゆる主体の総力の結集が必要である。そのため、広域連合は関係者に対し、将来像とその実現に向けた行程を提示・共有した上で、様々な事業・施策を効果的に結びつけ、積極的に連携・協働を図り、課題解決の先導的役割を果たすことで、関西における広域行政の責任主体としてリーダーシップを発揮していく。</p>	<p>広域連合の設立目的を踏まえ、現在の中央集権体制を打破し、東京一極集中の是正と国土の双眼構造の実現に取り組むとともに、広域課題への対応の更なる深化を図り、政策の優先順位を自ら決定・実行できる個性豊かで活力に満ちた自主・自立の関西を創り上げていくことを目指す。</p> <p>このためには、広域連合、国や構成団体、圏域内の市町村、経済界やNPO、住民といったあらゆる主体の総力の結集が必要であることから、広域連合は関係者に対し、将来像を提示・共有したうえで、関西の“力”を総合化する結節点となるよう、府県域を越えた広域連合であるという特性を活かし、関西における広域行政の責任主体としてリーダーシップを発揮していく。</p>

※第1期及び第2期は記載なし

第1期～第4期広域計画における、関西広域連合が目指すべき関西の将来像 【詳細】

第1期広域計画 (H22～H25)		第2期広域計画 (H26～H28)		第3期広域計画 (H29～H31)		第4期広域計画 (R2～R4)	
基本的な考え方 (柱立て)	—	アジアのハブ機能を担う新首都・関西	国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西	国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西			
	—	個性や強みを活かし地域全体が発展する関西	個性や強みを活かして、人の環流を生み出し、地域全体が発展する関西	個性や強み、歴史や文化を活かして、地域全体が発展する関西			
	—	—	アジアのハブ機能を担う新首都・関西	アジア・世界とつながる、新たな価値創造拠点・関西			
基本的な考え方	—	別紙	別紙	別紙			
将来像	広域連合は、グローバルな視点でアジアの拠点、西日本の拠点づくりを目指すとともに、多様な個性や強みを持つ関西のそれぞれの地域が全体として発展していくことを基本方向として、次のとおり関西の将来像を設定し、その実現を戦略的に展開することにより、関西の復興と創造を目指す。	基本的な考え方に基づき、20年、30年先を見据えた将来像を次のとおり設定し、その実現を目指すとともに、地方分権改革の積極的な推進を図り、分権型の地方税財政制度の下、自らの政策を決定、実行できる「自立した関西」の構築に構成団体一丸となって取り組んでいく。	基本的な考え方に基づき、以下のとおり、内に向けての関西地域内の均衡ある地域形成を目指して定めた将来像から、また、外に向けての関西が国際的な地域間競争に勝ち抜くことを目指して定めた将来像まで、6つの将来像を設定し、その実現を目指して、構成団体一丸となり取り組む。	基本的な考え方に基づき、以下のとおり6つの将来像を設定し、その実現を目指して、構成団体と一丸となり取り組む。			
	4 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西	4 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西	1 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西	1 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西			
	構成府県の防災に係る資源を活用し、そのネットワーク化を図ることにより、関西全体の安全・安心を向上させ、国内のみならず世界の防災・減災モデル“関西”を目指す。	関西の防災に係る資源を活用し、そのネットワーク化を図ることにより、関西全体の安全・安心を向上させ、国内のみならず世界の防災・減災モデル“関西”を目指す。	関西の防災に係る資源を活用し、そのネットワーク化を図ることにより、関西全体の安全・安心を向上させ、国内のみならず世界の防災・減災モデル“関西”を目指す。	関西の防災に係る資源を活用し、そのネットワーク化を図ることにより、 <u>関西の事前防災の取組を推進し、関西全体の安全・安心を向上させ、国内のみならず世界の防災・減災モデル“関西”を目指す。</u>			
	5 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西	5 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西	2 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西	2 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西			
	各地域の医療資源の有機的な連携により、特にドクターヘリなど救急医療面で多重的なセーフティーネットを構築し、安全・安心の医療圏“関西”を目指す。	関西の各地域の医療資源の有機的な連携により、特にドクターヘリなど救急医療面で多重的なセーフティーネットを構築し、安全・安心の医療圏“関西”を目指す。	関西の各地域の医療資源の有機的な連携により、特にドクターヘリ等救急医療面で多重的なセーフティーネットを構築し、安全・安心の医療圏“関西”を目指す。	関西の各地域の医療資源の有機的な連携により、特にドクターヘリ等救急医療面で多重的なセーフティーネットを構築し、 <u>また、災害時には構成団体の連携により医療資源を最大限効果的に活用できる安全・安心の4次医療圏“関西”を目指す。</u>			
	3 国内外にわたる観光・交流の関西	3 国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西	3 国内外にわたる観光・文化・スポーツの交流拠点関西	3 国内外にわたる観光・文化・スポーツの交流拠点関西			
	世界に誇る観光資源や歴史文化遺産を活かし、さらに魅力を高めるとともに積極的に情報発信に努め、国内だけでなく海外との地域間競争に打ち勝つ国際観光・文化圏“関西”を目指す。	世界に誇る観光資源や歴史文化遺産を活かし、さらに魅力を高めるとともに積極的に情報を発信し、国内だけでなく海外との地域間競争に打ち勝つ国際観光・文化圏“関西”を目指す。	世界に誇る観光資源や歴史文化遺産、スポーツ施設を活かし、さらに魅力を高めながら情報発信を行うとともに、 <u>関西に移転する新・文化庁とも連携して積極的に関西・日本を元気にする新しい取組を展開し、国内だけでなく海外との地域間競争に打ち勝つ国際観光・文化・スポーツ圏“関西”を目指す。</u>	観光資源や歴史文化遺産、スポーツ資源を活かし、更に魅力を高めながら情報発信を行うとともに、 <u>関西に移転する新・文化庁とも連携して積極的に関西・日本を元気にする新しい取組を展開し、世界に誇る国際観光・文化・スポーツ圏“関西”を目指す。</u>			
1 世界に開かれた経済拠点を有する関西	1 世界に開かれた経済拠点を有する関西	4 世界に開かれた経済拠点関西	4 世界に開かれた経済拠点関西				
グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、構成団体の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点“関西”を目指す。	グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、関西の各地域の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点“関西”を目指す。	グローバル化が進展する中で地域間競争に打ち勝つため、 <u>関西の各地域の強みを束ね、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点“関西”を目指す。</u>	関西の産業競争力を更に強化し、 <u>国内外での存在感を高めるため、各地域の強みを束ね、国内外から「人・モノ・投資・情報」が集まり、持続可能な社会の実現に貢献し、世界に開かれた経済拠点“関西”を目指す。</u>				

	第1期広域計画 (H22～H25)	第2期広域計画 (H26～H28)	第3期広域計画 (H29～H31)	第4期広域計画 (R2～R4)
将来像	<p>2 地球環境への対応、持続可能な社会を実現する関西</p> <p>関西のこれまでの取組の経験や蓄積を活かしながら、「温暖化対策」と「生態系の保全」の2つを柱として、環境先進地域“関西”を目指す。</p>	<p>2 地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西</p> <p>関西の都市と自然の魅力が同時に享受できる地域特性や高度に集積する環境関連産業のポテンシャルを基盤として、省エネの推進や再生可能エネルギーの導入促進など、地球温暖化対策をはじめとする環境問題への対応を先導し、環境先進地域“関西”を目指す。</p>	<p>5 地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西</p> <p>都市と自然の魅力が同時に享受できる関西の地域特性や高度に集積する環境関連産業のポテンシャルを基盤として、省エネや資源循環の推進及び再生可能エネルギーの導入促進等、地球温暖化対策をはじめとする環境問題への対応を先導し、環境先進地域“関西”を目指す。</p>	<p>5 地域環境・地球環境問題に対応し、環境・経済・社会の統合的向上による持続可能な関西</p> <p>都市と自然の魅力が同時に享受できる関西の地域特性や高度に集積する環境関連産業を背景に、環境を経済社会活動の基盤として、環境・経済・社会の統合的向上を実現する地域循環共生圏を形成し、他の地域のモデルとなる持続可能な“関西”を目指す。</p>
	<p>6 人やモノの交流、アジアのハブ機能を有する関西</p> <p>港湾や高速道路等の一体的な管理運営による物流コストの低減や経済、環境、医療、観光等のブランド力の向上により、アジアの交流拠点“関西”を目指す。</p>	<p>6 人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点関西</p> <p>経済、環境、医療、観光等における関西の魅力を活かして人が集い、また、港湾や高速道路等の一体的な管理運営による物流コストの低減にも配慮した創造的基盤を構築し、人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点“関西”を目指す。</p>	<p>6 人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点関西</p> <p>経済、環境、医療、観光等における関西の魅力を活かして人が集い、また、港湾や高速道路等の一体的な管理運営による物流コストの低減にも配慮した新しい社会基盤を構築し、人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点“関西”を目指す。</p>	<p>6 人・モノ・情報が集積する基盤を有する世界のネットワーク拠点関西</p> <p>経済、環境、医療、観光等における関西の魅力を活かして人が集い、高速鉄道網や高速道路網の整備、空港・港湾の機能強化により、国内はもとより、アジア・世界とつながるネットワークを構築する。 また、SDGsの推進や、日本の国家戦略であるSociety5.0時代への対応が求められる中、「2025年大阪・関西万博」の開催とそのレガシーを基盤として、人・モノ・情報が集積・融合・発信される世界のネットワーク拠点“関西”を目指す。</p>
備考	<p>・将来像は、第3期広域計画の並びで記載</p>	<p>・将来像は、第3期広域計画の並びで記載 ・下線は、第1期からの変更部分。</p>	<p>・下線は、第2期からの変更部分。 ・関西圏域の展望研究会から示された、「国土の双眼構造を実現する関西」と「人が環流し地域の魅力を高める関西」を関西の将来像（基本的な考え方）として設定し、その中で広域連合の立ち位置等について、広域連合の役割を記載。</p>	<p>・下線は、第3期からの変更部分。</p>

第2期広域計画（H26～H28）

第3期広域計画（H29～H31）

第4期広域計画（R2～R4）

国際的に地域間競争が激化する中、アジア各国においても「広域経済圏」が誕生し、重点産業への大規模な投資など戦略的な取組が進められている。一方、国内に目を向ければ、人口減少社会の到来に伴い、圏域内の均衡ある地域形成を阻害する地域活力の低下が顕著になるなど、関西を取り巻く環境は大変厳しい状況である。

このような状況下にはあるが、関西は数多くの高いポテンシャルや各地域が持っている多様な地域特性に恵まれた圏域であり、これらの強みを結びつけることによって、国内外の圏域に対して優位性を高め、地域全体の発展にもつながっていく。

国際的な地域間競争に勝ち抜くため、世界的な大学・研究機関等の連携による産業クラスターの形成や世界的に価値のある歴史・文化遺産、多様な地域資源等を結びつけた観光ルートの設定など、“人”をひきつける関西の魅力を創造するとともに、これを支える基盤を構築し、「はなやか関西」をコア・コンセプトとする関西ブランドをオール関西として世界へ発信することにより、ハード・ソフト両面におけるアジアのハブ機能を担う。さらに、首都中枢機能のバックアップ拠点としての役割を果たしていくとともに、中央集権体制と東京一極集中を打破し、関西と関東の双方に政治、行政、経済の核が存在する「国土の双眼構造への転換」を目指した国土政策の一翼を担う新首都・関西を創造する。

また、圏域内の均衡ある地域形成を達成するため、高次都市機能の集積が関西の発展を牽引するだけでなく、周辺農村部等の文化や自然、農林水産業など各地の多様な資源や地場の営みを守り高め、都市と農村とが相互に恩恵を享受するとともに、安全・安心な地域づくりや環境問題へ積極的に対応してきたノウハウなども十分に活用することにより、地域全体が発展する関西を創造する。

以上により、広域連合が目指すべき将来像の基本的な考え方として、次の2点を定める。

- アジアのハブ機能を担う新首都・関西
- 個性や強みを活かし地域全体が発展する関西

少子高齢が進展し人口減少社会を迎えた今日、人や企業が首都圏に集中する状況を放置すれば、地方の産業やにぎわいの衰退を招き、国全体では、災害等の危機に対する脆弱性が増すばかりか、没個性化した地域社会、人と人とのつながりの希薄化等、様々な弊害が発生する。多様な地域特性を持つ関西が中心となり、東京一極集中の是正を図り、その克服を目指さなければならない。

関西は、世界的に価値のある歴史・文化遺産、高等教育機関の集積、科学技術基盤に恵まれるとともに、文化庁の全面的な移転も決まるなど、国土の双眼構造の一翼を担うのに相応しい圏域である。

また、都市と農村が近接し両者の魅力を同時に享受できるという地域特性、阪神・淡路大震災の経験も経て育まれた共助や自主独立の高い意識、環境問題への先進的な取組といった関西の強みを最大限活かし、国内外の圏域に対して優位性を高め、関西への人の流れをつくり、地域全体の発展につなげることも可能である。

さらには、歴史的・経済的にアジアとの結びつきが強く、国際拠点空港や、国際戦略港湾、日本海側拠点港をはじめとする港湾が存在するなど交通・物流基盤が充実しており、アジアとの窓口が開かれている。

このような関西が持つ強みを活かし、広域連合が目指すべき将来像の基本的な考え方として次の3点を定め、これらが実現した圏域としての関西の創造を目指す。

我が国においては、少子化による人口減少と急速な高齢化の進展により生産年齢人口が減少し、生産性の低下、経済の停滞といった影響が懸念されている。そのうえ、東京一極集中は是正されておらず、若者を中心とした首都圏への人口流出には歯止めがかかっていない。また、経済のグローバル化により各国間の相互依存が進む中、国際的な地域間競争は激しさを増している。

こうした状況下においても、関西が総力を結集し、力強く成長、発展を続けていかなければならない。そのためには、豊かな自然や資源に恵まれ、大都市から農山漁村までが近接して存在する多様でバランスのとれた地域であり、歴史に裏打ちされた世界的価値のある文化遺産を数多く有するなどの関西が持つ個性や強みを活かすことが不可欠である。また、多くの研究・教育機関が集積するとともに、世界屈指の科学技術基盤を有しており、ライフサイエンス、環境・エネルギーなど多様な分野で世界トップレベルの研究が進められていること、首都圏に次ぐ経済圏域であり、人流・物流の拠点としての役割を果たしていること、文化庁の京都への全面的な移転の決定、総務省統計局の和歌山での統計データ利活用センターの開設、徳島への消費者庁新未来創造戦略本部の設置など、全国で唯一、政府機関の移転が実現していることなどは、関西が国土の双眼構造の一翼を担うのに相応しい圏域である証左である。更に関西では「ワールドマスターズゲームズ2021関西」や「2025年大阪・関西万博」といったビッグイベントが控えているほか、令和元年7月には「百舌鳥・古市古墳群」が関西で6件目となる世界文化遺産一覧に登録されるなど、世界と繋がる絶好の機会が到来している。

このようなことを踏まえ、目指すべき関西の将来像の基本的な考え方として次の3点を定めるとともに、広域連合が関西の“力”を総合化する「結節点」となって、その実現を目指していく。

第2期広域計画（H26～H28）

第3期広域計画（H29～H31）

第4期広域計画（R2～R4）

（関西が持つ強み）

○都市と農山漁村が近接し、都市と自然の魅力を同時に享受する地域

○北は日本海、南は太平洋に面しており、圏域間の連携やリダンダンシー確保に資する複数の国土軸を形成する地域

○空港や国際コンテナ戦略港湾等、交通・物流基盤の充実

○首都機能を代替することに資する中核的な施設の集積

○伝統産業から先端産業まで多種多様なものづくり・サービス産業が立地する地域

○世界屈指の科学技術基盤、世界的な大学・研究機関・医療施設の集積する地域

○京都議定書誕生の地や、琵琶湖・淀川流域をはじめとした水資源の保全といった環境問題に積極的に取り組む地域

○世界的に価値のある歴史・文化遺産が集積し、多彩な食文化に恵まれた地域

○阪神・淡路大震災、東日本大震災での経験を通じた知見・ノウハウの蓄積 等

※「はなやか関西」とは、関西経済連合会が地域ブランディングの考え方としてまとめた関西の魅力を伝えるためのコア・コンセプト。これに広域連合も連携し、統一イメージとして発信。

(1) 国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西

首都直下地震に対する備え、東京一極集中による地方の疲弊に対応し、国民の不安の払拭、国民が求める成長、豊かな社会の実現を目指していくためには、我が国の統治構造を中央集権ではなく、自立分権型に変えていくことが不可欠であり、東京から関西への拠点分散化を実現し、国土の双眼構造への転換を図るとともに、他地域に先駆けて分権型統治手法を実践している関西が分権型社会を先導することが必要である。

そのため、関西での首都機能バックアップ、中央省庁や研究機関、研修機関等首都機能の平時からの分散、首都圏とのインフラ格差の是正を、経済界とも一体となって強力に推進するとともに、東京一極集中を打破し、関西と関東の双方に政治、行政、経済、文化等の核が存在する国土の双眼構造への転換を推進する。

また、国の出先機関の「丸ごと」移管をはじめとした国からの事務・権限の移譲を積極的に求め、政策の優先順位を自ら決定・実行できる自主・自立の関西の実現を目指す。

(2) 個性や強みを活かして、人の環流を生み出し、地域全体が発展する関西

人口減少に伴う課題を克服するためには、高次都市機能を集積するだけでなく、周辺農村部等の文化や自然、農林水産業等、各地の多様な資源や地場の営みを守り高めることが重要である。さらに、都市、農村それぞれが相互に恩恵を享受するとともに、安全・安心な地域づくりや環境問題へ積極的に対応してきたノウハウ等を十分に活用することも重要である。これらの取組により、各地域の魅力を高め、「人の環流」を生み出し、地域全体が発展する関西を創造する。

(3) アジアのハブ機能を担う新首都・関西

国際的な地域間競争を勝ち抜くため、大学・研究機関等の連携による産業クラスターの形成や価値のある歴史・文化遺産、多様な地域資源等を結びつけた観光ルートの設定等、“人”をひきつける関西の魅力に一層磨きをかけ、「はなやか関西」をコア・コンセプトとする関西ブランドをオール関西で世界へ発信するとともに、これらを支える基盤を構築することにより、ハード・ソフト両面におけるアジアのハブ機能を担う関西を創造する。

(1) 国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西

今日の中央集権体制や東京一極集中は、地方における人口の減少や、活力の低下をもたらすのみならず、ひとたび首都直下型地震のような災害が発生すれば、国家の中核機能は麻痺し、我が国に大きな打撃となる。中央集権体制を打破するとともに、東京一極集中を是正し、自らの政策の優先順位を自らが決定・実行できる個性豊かで活力に満ちた関西をつくるため、引き続き国の出先機関の「丸ごと」移管をはじめとした国からの事務・権限の移譲を積極的に求めていく。

また、在関西政府機関等との連携を進めるとともに、首都機能のバックアップ構造の実現、首都圏とのインフラ格差是正を進めるための取組などを、経済界とも一体となって強力に推進する。

これらの取組を通じ、地方分権を推進するとともに、国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西を目指していく。

(2) 個性や強み、歴史や文化を活かして、地域全体が発展する関西

関西全体が発展するためには、人の流出を食い止め、国内外から人が入ってくるようにしなければならない。それぞれの地域で長きにわたって育み、受け継がれてきた多様な歴史や文化を活かし、更に磨きをかけ、関西の多様で豊かな地域性や多文化共生の風土・気質など、住み働く地域としての魅力を国内外に発信することで流入人口を増やすとともに、子どもの頃から地元を愛し大事にする価値観を醸成するような取組により定住人口の増加も図る。更には、こうした取組を通じ、関西に誇りや愛着、自信を持つ人を増やし、国内外を問わずさまざまな形で関西と継続的につながる関係人口の増加にもつなげ、地域全体が発展する関西を創造する。

(3) アジア・世界とつながる、新たな価値創造拠点・関西

世界各地における戦略的な観光プロモーションの実施、観光分野と連携した関西文化の魅力の世界への発信、産業競争力の強化によるイノベーションの推進、多様な地域資源の活用と連携によるポテンシャルの向上と相乗効果の発揮、これらを支える基盤の構築など、よりグローバルな視点での取組をハード・ソフト両面において、SDGsの推進、Society5.0への対応も踏まえて、積極的に実施する。また、「はなやか関西」をコアコンセプトとして関西ブランドを世界へ発信する。

各自治体や民間団体が積み重ねてきた国際交流の実績に加え、「ワールドマスタースゲームズ2021関西」、「2025年大阪・関西万博」など世界的イベントも活かしながら、関西が一丸となってこうした取組を進めることにより、人・モノ・情報を集結させ、融合し、関西から新たな価値を創造することで、アジアのみならず世界での存在感を高めていく。